

# 令和2年度事業報告

令和2年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

## 1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

### (1) 戦跡慰霊巡拝

#### ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を高知県地域福祉部長、高知県議会議長及び遺族など10人が参列し、11月29日～30日まで1泊2日の日程で実施した。

30日午前に挙行了慰霊祭には、地元八重瀬町関係者など沖縄県から11人の参加をいただいた。

今回の慰霊巡拝は、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者や旅行期間の規模縮小をして行うこととし、1泊2日の日程で高知県遺族会からは会長以下3人と少人数の参列となったが、地元関係者等の協力により、例年どおり厳粛に慰霊祭を挙行できた。

【高知県からの参加人員 10名】

#### イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県広報などにより参加者を募った。

本年度は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響から、事業の全てが中止となった。

### (2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に本部役員や支部役員が参列するほか、メッセージや追悼電報を送付し、英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 10ヶ所、追悼電報等対応 3ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

### (3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、県とともに遺族団を引率・参列した。なお、新型コロナウイルスの影響により、参列予定者のキャンセルが相次ぎ、最終的に1名となった。当日は、式典参列、戦没者の追悼、平和の祈願を行うことができた。

・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 1名 付添職員等 3名（県職員、遺族会職員等）

## 2. 広報啓発事業

遺族会報を隔月5,200部発行し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県内各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。なお、7月号より年4回発行（5,000部発行）とした。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに地区遺族会等に配布し、英霊顕彰運動等の普及を図った。

## 3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、これまで活動の中心となってきた遺児の高齢化に伴い、遺族会の活動や組織維持についての方向、それに関連しての戦没者遺族の処遇改善、財源の確保など多くの課題を抱えている。

こうした課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための活動を行うなど、主に次の事業を実施した。

### (1) 遺族運動の推進

例年、次の会議にそれぞれ代表を派遣し、遺族の処遇改善等の運動を展開しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全て中止となった。

・全国戦没者遺族大会

・日本遺族会中国・四国ブロック遺族会会議

(2) 老人福祉事業

100歳を迎えた戦没者の妻を表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 13名】

(3) 女性部事業

高知県遺族会の開催する研修会や日本遺族会が行う各種会議等が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(4) 壮年部事業

高知県遺族会の開催する研修会や日本遺族会が行う各種会議等が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(5) 青年部事業

青年部（次世代の会）活動企画メンバーによる会議を2回開催し、取り組む企画の協議を行った。最初の企画として、具同地区忠霊塔清掃活動と幡多支部との交流会を四万十市で行った。青年部を中心として17名が参加し、午前中に忠霊塔の清掃活動を行い、午後から2名が加わって、青年部と幡多支部の交流会を開催し、活発な意見交換が行われた。

また、高知県遺族会として部員の拡充を目的に勧誘チラシの作成を行い、神社等の行事開催に際してPRに努めた。

(6) 遺族大会

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止した。